

平成21年5月11日 文部科学省 医学教育課
大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会

国際的動向および教育経験からみた 看護学教育への私見

南 裕子
近大姫路大学学長
国際看護師協会会長

主なポイント

- 看護教育から看護学教育への移行の背景
- 世界の看護教育の動向
 1. ヨーロッパの例
 2. アメリカの例
 3. その他
- 看護学教育の構造
- 教育と実践の狭間
- 提言

看護教育から看護学教育への移行期 Occupational Training／Education から Professional Educationへの移行

- 保健医療福祉のニーズとサービスのグローバル化
 - ①多様なヘルスニーズが国境を越える
 - ②ヘルスサービスが国境を越える
 - ③専門職が国境を越える
- 国内におけるヘルスニーズの多様化・複雑化
- 大学制度の変革
 - ①純粋科学から応用科学までの教育
 - ②専門職教育を大学院で行うための体系化
- 女性の地位向上
 - ①大学への進学率
 - ②専門職への就業率のアップ

看護・看護学教育の主な動向

- 専門職教育の基礎教育として大学教育へ
- 知識・技術習得重視教育から知識・技術開発能力重視教育への移行
- 分化型現場指向教育を統合して、専門職としての基礎教育へ
- そして、基礎一卒後教育への体系化をはかる

ヨーロッパにおける大学化への動き

- 基礎免許の分化の時代から統合へ

eg. Project 2000

- @一般看護師(成人系)、高齢者、小児、障害者などに特化した免許、助産師免許

- @post basicとしてPH 看護(スコットランド)、District Nursing (England)

- EU 同意事項

- @12年間のpre education

- @3年間以上または4,600時間の教育

- 実習は1/3から1/2

- Bologna Processに合わせて

- @学士課程での教育(研究、技術、コンピテンシー)

- @学校長または課程長は修士号以上の看護師

ヨーロッパの課題と対策

- 国によって教育水準がかなり違う
- 看護職の国境を越えた移動
- 実践と教育のギャップの拡大
- 大学教育とtrainingとの格差をどう縮めるか(CPD)



EFN (European Federation of Nurses) 活動

vs

EU 組織内活動

ワシントン大学看護学部の例

－4年制(BSN)180単位

- **Prerequisite Course 2年間 92単位**

- －化学系、解剖生理、分子生物学、栄養学を含む

- －ヘルスケア体験：

- 最低100時間のボランティアまたは就業

- **看護学専門コース 2年間 88単位**

- －基礎系、臨床系、地域系を含む授業

- －演習・実習は23単位

多様な教育課程

- カナダのトロント大学: 2年間のBSプログラム for matured candidate(実習は12.5週)
- ワシントン大学: 他分野の大学卒業者への2年間プログラム (MEPN Master Entry Program in Nursing)
- オーストラリアの3年間でBSN

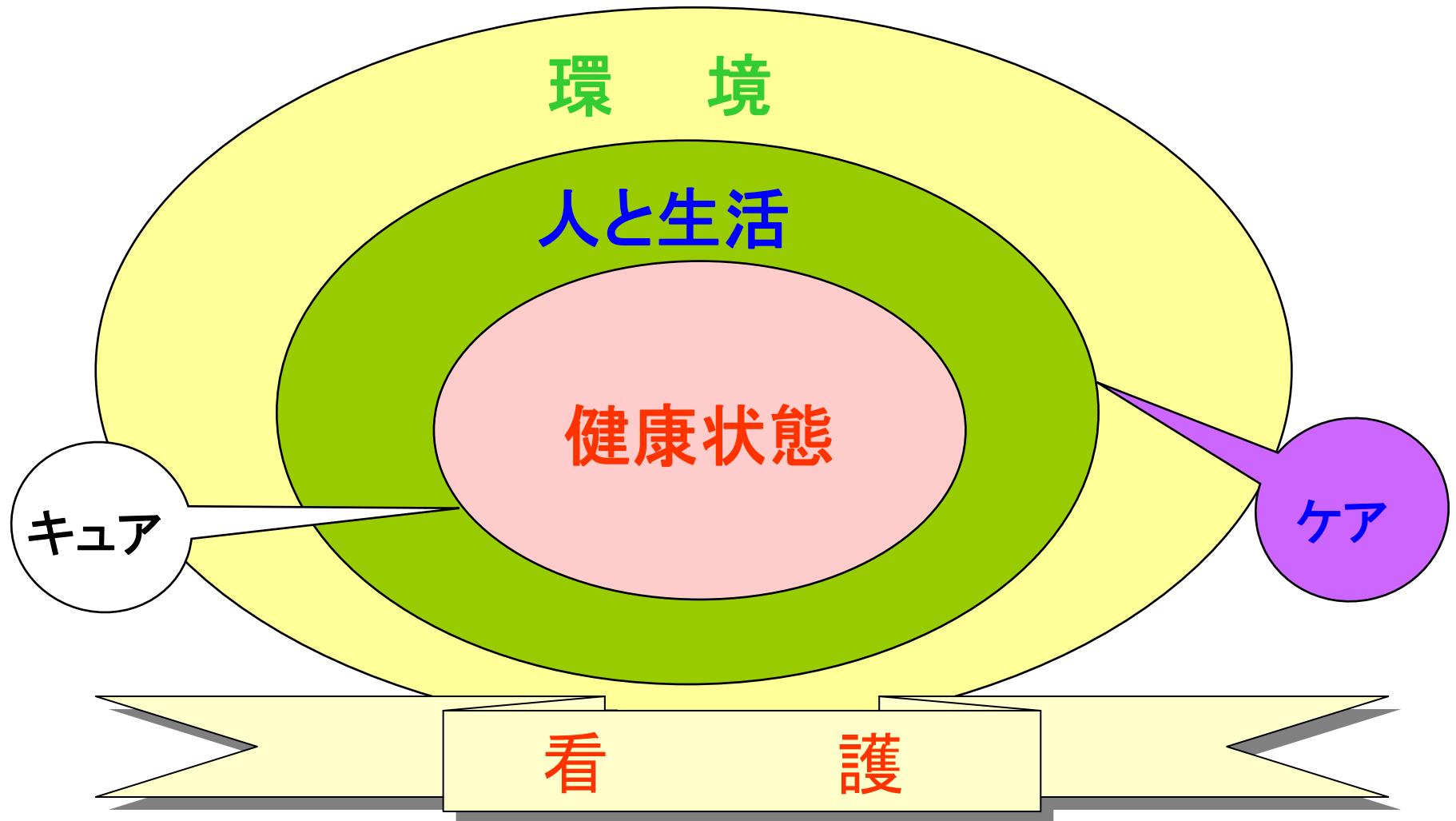
大学における看護学教育では

- 学士力、教養の教育
- 看護職になるための基礎教育
- 現場への適応能力、批判能力、
- 看護の知識と技術の検証基礎能力
- 大学院教育に対する基礎能力

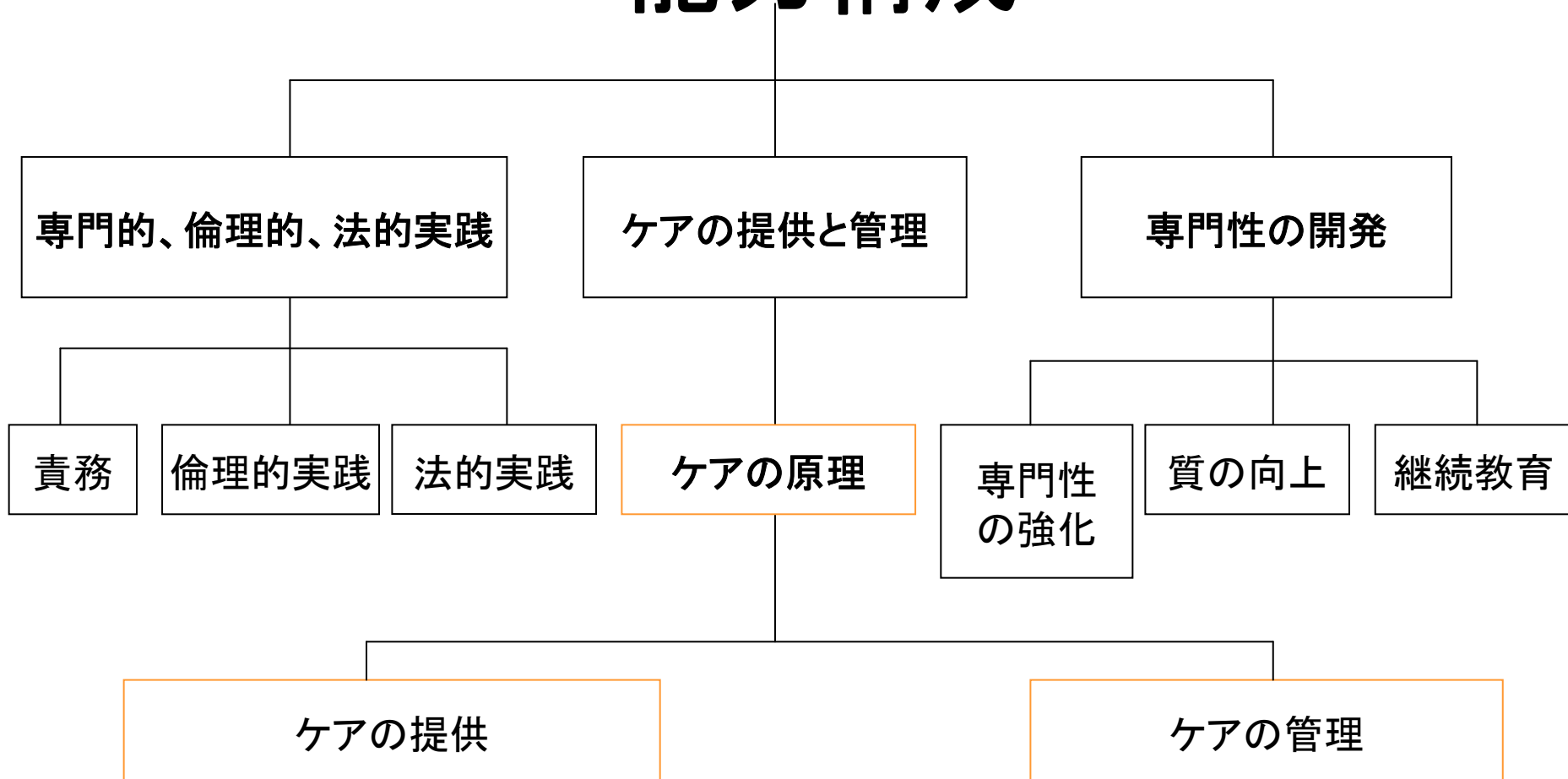
・人的・物的資源の裏打
・研究活動に裏打ち

・時間ではなく質の担保
・普遍性、国際性の保証

看護の概念構造



ICNの提案する看護師の 能力構成



ケアの主な原理

ケアの提供

査定

計画

実践

評価

治療効果
のある
コミュニケーション
と人間関係

ケアの管理

安全な
環境

職種連携の
ヘルスケア

委嘱と
監督

基礎教育と免許と実践の狭間で

- 免許制度は国によって大きく異なる
 - －国民の安全と看護の質を保証する
 - －教育と免許の関係
- 理論と実習のバランス
- 教育と実践の間のギャップ；卒前と卒後の関係



卒後研修を前提にしての基礎教育！

大学院におけるAPN教育

継続教育

大学への編入学

Post-basic 教育

国家資格・免許

Post-basic training

特定分野

特定分野

一般看護師

特定専門基礎教育

特定専門基礎

共通基礎教育

統合と選択

従来の看護系基礎教育

大学における看護学教育

教育と実践のギャップ: 古くて新しい問題 (Eraut M. et al 1995)

- 理想と現実のギャップ
- 知識の本質と特定の応用の相違
- 学習したものを移行し、活用する問題
- 場や資源の相違によって知識の活用が変わる

卒後の臨床研修

- 伝統的な方法；
院内研修、プリセプター
- オーストラリアの例
- EUの探求

日本の看護学系人材養成への提言

- 基礎教育の見直し
 - ①制度等の問題：免許と基礎教育、教育課程
 - ②大学自身の課題
- 基礎教育における統合と選択
- 伝統的な狭義の講座的柱の立て方の抜本的見直し
- 教養としての看護学教育を含む
- 卒後の科目等履修生など通して可能な選択
- 卒後研修の在り方の検討：義務化か努力化
- 大学院教育の体系化：APN育成vs研究者育成

教育を大学へ移行するための課題

- 奨学金制度の充実
- 多様な教育体制や方法の開発
 - ー 通信教育課程、遠隔教育
- 卒後に免許が取れる方法
- 働きながら学べる道の開発

引用文献

- De Raeve, Paul (2005) Nursing and health developments in Central and Eastern Europe
EFN report
- De Raeve, P (2006) Education from a European perspective
8th RCN Joint Education Forum's Conference and Exhibition
- Aiken, L. & Havens, D.(1999) Shaping systems to achieve desired outcomes,
J. of Nursing Administration, 29, 14-20
- Ferguson K E & Jinks A M (1994) Integrating what is taught with what is practised in the nursing curriculum: a multi-dimensional model
J. of Advanced Nursing 20, 687-695

引用文献(続き)

- **Eraut M. et al (1995) Learning to use scientific knowledge in education and practice settings
ENB Research Report Series, London**